

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月28日(土) 午後3時から4時30分まで 【2回目】平成30年8月9日(木) 午後6時から7時30分まで
場 所	多賀中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】18人 【2回目】17人 計35人 (2) 事務局 【1回目】教育部長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 成沢小 195人(6) 油縄子小 129人(6) 諏訪小 201人(6) 多賀中 256人(9) (20年後) 成沢小 147人(6) 油縄子小 97人(6) 諏訪小 151人(6) 多賀中 193人(6) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 推計が出されているが、地域によって減少率に偏りがあるのではないかと。</p> <p>(事務局) 推計は、国の推計に用いた率を一律に掛けている。具体的に検討するときには、過去5年間の推移を加味するなどしながら検討していきたい。</p> <p>例えば、小学校区では滑川学区で減少率が高くなっている。日立市では山側の団地が多いが、団地ができてから何年か経つと子どもの数が減ってくる。滑川地区がその時期に当たっていて、かみあい団地ができて急激に子どもの数が増えた反動で減少率が高くなっている。現在、楡形小の児童数が多いが、城の丘団地が造成されたことで増えている。過去の事例では、金沢団地や塙山団地などの山側団地を学区内に持つところでは、団地造成から15年程度で児童数が半分くらいになっている。他にも、団地ができてから15～20年で児童数が減ってくる傾向がある。</p> <p>未就学のお子さんの分布を見ると、現在の未就学児が中学生になる12～13年後の城の丘団地は、35%くらいの減少率がある。街中でも20%台の減少率を示すところもある。</p> <p>(質問) 小1、2は40人だったので2学級だったが、3年生になり、40人の1学級で戸惑っている。進級して体も大きくなっているのに、子どもが少ない中で1学級にする必要があるのか。一方で、20人というのも少なすぎると思う。</p> <p>(事務局) クラスの編制は、国の基準に基づいて、県が学級編制のルールを作っている。茨城県で</p>	

は、小学2年生までを35人、小学3年生から中学3年生までを40人としている。41人になると20人と21人の2学級になるのが現行のルール。学級の人数には幅がある。小学2年生までは36人になると、18人の2学級になる。できるだけ先生が目が行き届くように、36人以上になると担任のほかにもう1人講師を配置して2人の先生で見る。また、36人以上の学級が学年で3学級以上あると1学級増やして4学級にする。そのようなルールに基づいている。

日立市でも少人数学級にするための事業があり、特別支援学級のお子さんが交流学級に戻って36人以上になるところに、独自に先生を1人配置している。

（意見）

20人も少なすぎると思う。30～35人くらいがよいと思う。20人の生活に慣れてしまったというのもあるが、教室も狭く感じるし、何をするにも時間がかかると先生がおっしゃっていた。40人にも慣れるのかもしれないが、今は戸惑いが大きい。小1、2の時はクラス替えがあって社会性を養うにはよかった。

（教育部長）

3年生以上も35人学級を適用してほしいという要望はしている。先生が足りないという状況はあるが、引き続き要望していきたい。

（質問）

具体的になっていない段階だということだが、油縄子小が統合されるとすると、通学の仕方はどうなるのか不安だ。途中で再編になり、転校することになるのか。次年度に入学する子どもから再編された学校に行くことになるのか。

（教育部長）

まだ、決めていない。数合わせだけでは再編したくないし、できないと思っている。統合をすることで通学距離が延びるのは仕方ないとしても、安全に通学するためにどのような手立てを講じるかということも併せて検討していく。

来年度中には何とかしたいと思っているが、地域の事情などで時間がかかることもある。素案ができ次第、改めてお知らせするので、ご意見をいただきたい。

（意見）

どちらにもメリット、デメリットがある。少ないことのデメリットがありながらも数年はやっていかなければならない。人口が減少することがそもそもの問題だが、少ないなりのメリットを生かして、子育てしやすい環境としてアピールしてはどうか。田舎の方が伸び伸びして育てやすいと考える方もいる。多くなったらどうするかは再編するときに考えればよい。今のやり方の良さもアピールしていくことも検討してほしい。

（教育部長）

日立市の子育て支援についてアピールする活動をしている。次は、「教育は日立市で」とアピールすることを考えている。

中里地区は立地もあり、他の学校と統合することも難しい地域なので、特色を出して残していこうとしている。

日立の教育の特色は、ランドセル贈呈をはじめ、理科クラブなどいろいろある。

(意見)

日立製作所があり、優秀な人材がリタイアして地域にたくさんいらっしゃる。受験生などに勉強を教えてもらうなどアカデミアの人材として活用してはどうか。

(事務局)

理科クラブでは、理数教育に特化した理数アカデミーなども行っている。理科と数学に特化して、専門的な知識を持つ方から指導を受ける事業もある。広くPRしていきたい。

行政もアピールしていくが、保護者間の口コミも強い影響力がある。日立の教育の良さをお感じであれば、どんどん発信していただけるとありがたい。

(質問)

それは、学校生活以外の教育に力を入れていくということか。今のお話は、学校内の教育体制を整えていくことだと思っていた。人数が少ないことで目が届きやすいというようなことを、もっと整えていくことかと思っていた。

(教育部長)

理科クラブは授業支援も行っている。理科の授業中に各学校に来て、子どもが興味を示すような仕掛けを使って先生の授業をサポートしている。学校の授業の他にもご協力をいただいている。

(意見)

キャリア教育やプログラミング教育など、新しい教育が出てきている。その面でも少人数教育はいいことだと思う。教育(の中身)が追い付いていかなければ意味がないと思う。

(質問・意見)

クラスが多いことにメリットがあることはよく分かるし、そう思う。

36人以上の学級に教員が1人配置されるのは、県の事業か、市の事業か。せっかく先生がいるのだから、その1人分で2学級にできないか。

通学はたいへんだと思うが、人数がこれだけ減っていく現状では再編せざるを得ないのも現実なのだと思う。人数だけの統合ではないということだったが、統合案を示すときは、その理由も説明してほしい。保護者の意見も聞いてくださるということだが、行政として大切にしたい理由を教えてください。

(事務局)

36人の学級に講師をつけるのは茨城県の事業。それだけではカバーできない、特別支援学級のお子さんを含めて36人以上になる学級に講師をつけるのは日立市の事業。学級を増やせるかどうかは、ルールに沿うと増やすことはできない。習熟度によってクラスの中を分けるなど工夫をすることはできる。

再編の決め方は、いろいろな要素があるので、何を1番に考えるかは、再編の組み合わせや地域の事情によって異なるだろう。お子さんの負担を無くす、学習環境をより良いようにという視点が大事だと思う。通学の面では、できるだけ遠くならにように、危険なところを通らないようになど。校舎の新旧や敷地の広さなどにもよる。小学校と中学校が近いことなどもメリットになる。いろいろなことを考えて組み合わせのメリット・デメリットを考慮して選択していきたい。選択については、案として理由をお示しした上で、学校現場や地域の方にも意見も聞きながら決めていきたい。

(教育部長)

小学校の保護者にとっては立哨当番なども大変だと思う。登下校の時、地域の子どもということで見守っていただいている。再編を考えると、地域の理解と協力が欠かせない。「子どもたちのための環境づくり～市民とともに～」というタイトルは、コミュニティも交通安全母の会も警察も行政機関も力を合わせてやっていきたいと思いますということ。

学校の活動の中では、学校の教職員だけでは手が回らないこともあり、保護者や地域の方が協力してくれている。

皆さんの命より何より大切なお子さんをみんなで守るためには周りも固めないと安心して暮らせない。いろいろな場面で皆さんにお願いすることもあると思う。

学校の配置を変えることは影響が大きい。調整しながら理解をもらいながら進めていきたい。

(事務局)

直接再編に関わる以外にも、現在の学校生活の中で感じていることを伝えていただきたい。教育委員会の中ですぐにでも改善に取り組めるところは取り組んでいきたいし、そのような中から再編に関わることも見つけていきたい。

(意見・質問)

実際は、遠くの小学校に通わせることは保護者として心配なので、小学校の統合には反対。中学校なら、ある程度の距離は歩けると思う。

人数の多い学区の境界を変えるという検討はしないのか。

(事務局)

学校の再編といっても統合だけではなく、いろいろな手法があると思う。ご提案いただいたような方法もあると思う。学区というのはだいたい前に引かれた線で、お店ができたりマンションができたり、今とはずいぶん条件が違っていた。本来は、その都度、見直すことでバランスよくできるのだと思う。その点で、ご提案はそのとおりのことと思う。一方で、問題もあることをお伝えしたい。数の話になってしまうが、隣が多いので線を引き直してならしても、絶対数が少なくなっていくので、今この中でバランスをとっても、今後は両方が小さくなってしまふ。その辺をうまく見極めなければならない課題もある。それらを踏まえながら案をお示ししていきたい。

(教育部長)

日立は町として古いので道路事情がよくない。中学生なら自転車通学もできると思っても、ルートによっては自転車で走ってほしくないところもあるはず。そのような難しさもある。

歩けなければ、路線バスであれ、スクールバスであれ、考えなくてはならないが、他の自治体では、スクールバスを走らせたなら子どもたちの体力が低下し、登校したら校庭を走らせたりしている。笑い話のようであっても、通学について何を最優先するかといえば安全だ。これが担保できなければ再編できない。

(質問・意見)

小学校を基点として（小学校を残して）小中一貫教育は考えないのか。小学校は数が多く家から近い。通学距離を考えなくてもいい。

(事務局)

小中一貫教育は、基本方針を作る際にも多く意見をいただいた。むしろ、小中一貫教育について検討を進めているところである。9年間を見通して一貫して指導ができる。中学校の教員が専門性を生かして小学校で教えることもできる。検討の余地がある良い仕組みだと思う。一方で、効果を最大限に生かすためには、距離が近いことが必要。小中一貫教育を行うためには建物を一つにする、もしくは隣接することが条件になるといわれている。やれる所とやれない所が出てくるのが現実的には問題になってくる。

(意見)

子どもの数が減っていくから教室が余る。小学校に小中学校の人数が入るのではないのか。中学校を再編して小学校を残していくことができるのではないのか。

(事務局)

そのようなことも検討していく必要はあるだろう。

中学校について、保護者の方から意見が多かったのは部活動に関する事。部活動はある程度人数がいないと選択肢が広がらない、部活動の種類が減ってしまう。小中一貫校とした場合、中学生は増えない。極端なことをいえば、中学校と中学校を統合しないと中学生は増えない、部活動の種類を増やすことができない、部活動の視点からは根本的な解決ができないといわれている。バランスもあると思うが、小中一貫校としてのハード面、人数が確保できるかなども考えていかなければならないと思っている。

日立市では、小中一貫教育の良い所を取り入れようとして平成22年度から小中連携教育に取り組んでいる。中学校を中心に小学校をグルーピングして、小中学校の先生方が指導方法を共有したりする取組を、市全体として行っている。

(質問)

小中連携教育で、児童生徒の交流は含まれているか。将来、同じ中学校に行くものとして交流したりはしないのか。

(事務局)

授業での交流はできることとできないことがある。小学校の陸上記録会に向けて、中学生が小学生を指導したりしている。

(意見)

将来統合するなら、事前の交流があるとよい。子どもたちも心の負担が減るのではないのか。

(事務局)

A校にB校を統合する場合の例でいうと、B校に新入生を入れない形にすると、B校では年々少なくなり下の学年がない状態になる。それでは学校行事もできなくなるし、卒業式も当該学年だけということになる。学校本来の在り方とは違うと思う。3年後に統合するという計画を立てて、それまでの準備として、子どもたちだけでなく、教職員、PTAなど学校同士の交流事業をしっかりと行なって、準備をしたいと考えている。

(教育部長)

統合の場合、大なり小なり校舎に手を入れることになる。単体の学校の校舎の建て替えや耐震工事などの場合は、プレハブ校舎に移ってもらうことになるが、統合であれば、狭

い場合もあるだろうが、一時的にどちらかに移ることができる。そのような形での交流もできるのかもしれない。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

個々の学区についての推計を伺ったが、他の地区で減少率が大きいところはどこか。

(事務局)

十王地区は30.0%で市内の平均よりも減少率が大きい。南部地区は22.5%で平均に近い。

(教育部長)

市内では、楕形小学校が、教室が足りないくらいのマンモス校だが、多い要因は城の丘団地があるから。時間が経つと減ってくる。自然減や社会減で子どもの絶対数も減っているが、団地の子どもが育ってしまうと少なくなる。

グラフを見ると右肩下がりだが、願わくは上に向けたいので、市役所全体で取り組んでいる。子育て支援の様々なメニューなど考えられることは取り組んでいる。あったらいいと思う施策など教えてほしい。

(意見)

日立に長く住みたいと思うが、土地が高くて家を買えないので市外に出てしまう。市内は物価が高い。北茨城市から5年くらい前に転入したが、日立は教育力が高く子どもの学力が高い。学力が高いので上を目指し、大学などで県外に出てしまい戻ってこない。戻る所(仕事)がない。戻ってきたいなあと思う日立にしてほしい。

(教育部長)

日立市の奨学金は、卒業後、日立に住むと半額になる。日立市に住み続けている限り半額分を補助する。

(質問)

10年間とは、10年の間に計画を作るのか、10年後にスタートするのか、10年の間にスタートするという事か。

(事務局)

10年間の後にスタートするのではなく、10年間にどこの学校からスタートするかをお示ししたいと考えている。

他の自治体の例では、統合には3～5年かかるといわれている。統合することで子どもの数が変わるので、学校を増改築する機会が多く、設計から建て終わるまで3年程度かかる。その前にも準備期間が必要。お子さんの環境が変わるので、負担をかけないようにするために、どのようなことが必要かを協議する時間も必要で、それに1～2年かかるといわれている。学校同士の交流事業などをしながら完了するまでに5年くらいといわれている。

10年の間にやれることを順番にやっていくとイメージしていただければいいと思う。

(意見)

このような懇談会などでの意見を集約して、1年後くらいに計画ができると理解した。

(質問)

統合ということになれば、統合される(無くなる)側の通学距離が長くなる。スクールバスなどの代替措置はあるのか。保護者の送迎が原則となると、働いていたりすると負担になる。

(教育部長)

選択肢の一つではある。費用負担の問題や広い学区をどのようにバスを回すのかといったことについて、保護者の皆さんとの協議が必要になるだろう。特に、日立市は道路事情が悪いので、低学年の子どもが歩いて登校するのに具合が悪い所もある。

統合にもいろいろな要件があり、通学距離のほかにも校舎の大きさや敷地面積なども関係する。人数が多い方に統合するとは限らない。

(意見)

そういう所にひずみが出ると思う。大きい学校に統合というほうが納得しやすい。多い所が少ない所に統合されると、腑に落ちないところがある。

(教育部長)

学校の統合は吸収合併というばかりではない。対等な統合を考える。校舎を新設できなくても、学校名など新しいものを考える。

(意見)

統合が発表されて3～5年という期間は短いので驚いた。

(教育部長)

学校規模が小さい強みもある。いじめがほとんどない、先生が目が届くなどの良い面がある。一方で、デメリットもある。子どもたちは、ある程度の人数の中で切磋琢磨したり、達成感を得たりすることが必要だ。

先日、子ども議会を開催したが、少くない割合で部活動についての質問があった。冬場の練習時間の確保のためにナイター照明をつけてほしい、勝ちたいと思って取り組んでいるのに、練習時間が短くなるような朝練禁止を見直してほしい、人数が減ってやりたい部活ができないなどの質問が出された。部活動は、生徒たちにとっては重要なこと。

主要な5教科に複数教員が配置できたりすることも教育環境にとっては大きなこと。規模がある(人数が多い)ことに、無視できないメリットがある。

学校の再編は、子どもための環境をどのように作っていくのかということが根底にある。地域によっては、母校が無くなると困るという所もあるが、その学校に、今、通う子どもたちが、部活動やクラス替えができないことになってもいいだろうかと考えなくてはならない。

(意見)

数年前から、成沢小は油縄子小に統合されるという話が出ては消えることを繰り返している。

油繩子小はクラスも多めに作ってあると聞いた。統合できる状態にあるのなら早く統合してほしいが、(青葉台や堂平) 団地など、遠くなる方には簡単な話ではないと思う。気象状況なども考えると、校舎の古い学校はエアコンもないが、子どもが減っていく学校のためにエアコンをつけたりしてお金を使うよりは、新しい使える校舎を有効に使ってほしい。

(教育部長)

小学校の耐震化は全校で済んでいる。この工事を急いだ。学校の格差があることは認識している。

夏の暑さもひどくなっているので、何とかしたいと努力している。

統合のうわさについても、教育委員会では何も決めていない。決まったら、市報で広報する。決定前にはご意見を伺う機会を設ける。計画策定に長い時間をかけるつもりはない。

(質問) (成沢学区)

理想とされる1学級の人数は何人くらいか。

(事務局)

一般的には25～30人といわれている。経験からは、40人くらいだと切磋琢磨できるし友人関係も広がってよいが、30人程度であれば目が届くと感じる。

なぜ、その人数にならないか。学級の人数には、国や県で定められた定数がある。国の定数では小学1年生だけが35人。小学2年生から中学3年生は40人を上限としている。茨城県では、茨城方式として、小学2年生の上限を35人としている。小学3年生以上で36人以上の学級には非常勤の先生を配置している。1学年で36人以上のクラスが3学級以上あった場合は1学級増やせる。

茨城県でも少人数学級に取り組んでいるが十分ではない。予算面もあるが、近年は教員志望者が減っており、教員が不足していることも要因。

学力テストの点数が高いといわれているフィンランドなどでは、30人以下。

一方で、目が届くからといって、極端に少ないことも問題がある。2つの学年を1クラスにまとめる複式学級など目は届くが、子どもたちから見れば、もっと友達がほしいと思っているかもしれない。

(事務局)

現在の通学時間はどのくらいか。

(意見)

7時10分に家を出る。

(事務局)

40～50分は歩いていることになるだろうか。

(意見)

朝は全部下りでそのくらいかかる。

(事務局)

帰りは上りだからもっと時間がかかるということ？

(意見)

それだけの時間を一人で歩いてくるのは嫌だろうと思う。平坦な土地の子どもたちばかりではない。変質者も多い。

(意見)

自家用車の乗り入れができないので、保護者も参観日など学校へ行くのはたいへん。祖父母なども学校へ見に行ったりするので、歩いていくのは一苦勞。

(教育部長)

通学に路線バスを利用するのは抵抗があるか。学校の下校時間に合わせて、路線バスが動いてくれたらどうだろうか。

(意見)

荷物が多く重いので、バスに乗っても心配。夏の暑い時に、そんな大荷物で歩くのは大人でも大変。置き勉ができればいい。

(教育部長)

児童クラブについては、どのように考えるか。仮に統合したら、対象人数が倍になる。しっかり整備していきたい。

(意見)

就労日数などの条件を取り払って、1日200円程度で、もっと気軽に使えるようにしてほしい。

(意見)

6:30以降は1時間110円で見てもらっている。保育時間を長くしてほしい。保育園と学校など、お迎えの場所が複数になると間に合わない。この保育時間は、職場と自宅がとても近い所しか想定していない。夏休みの朝の時間なども間に合わない。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。